

06〜08年の第三国研修「灌漑農地」も長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、



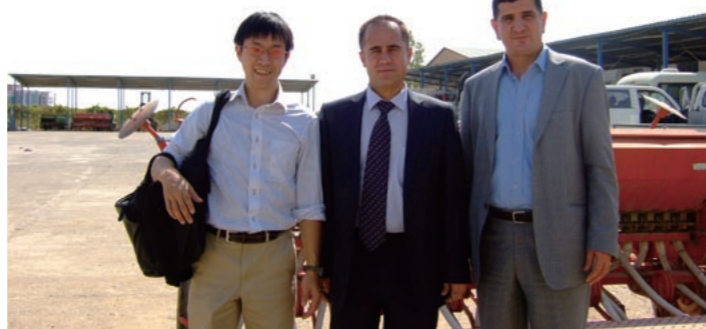
シリアで灌漑技術について学ぶイラク人研修員。農業試験場に設置された流量計を用い、パイプを流れる水の量を計測中

06〜08年の第三国研修「灌漑農地」も長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

06〜08年の第三国研修「灌漑農地」も長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

※経済制裁の影響がイラクの一般市民に及び過ぎていたことから、市民にとって人道的に必要な物資の提供に代わり、イラクの石油輸出を限定的に認めた措置。

この8月にイラクに赴任した野口専門家(左)。隣は、クルド自治政府・農業水資源省のマクスードさん(小麦)とタレックさん(園芸)



他方、研修を通じた人材育成にも長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

新しい支援に向けて 日本人専門家が現地入り

そして2010年8月、農業政策アドバイザーとして戦後初めて日本人専門家がイラクの地を踏み、農業復興に向けたJICAの支援が本格化した。さらに今年8

他方、研修を通じた人材育成にも長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

他方、研修を通じた人材育成にも長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

他方、研修を通じた人材育成にも長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

他方、研修を通じた人材育成にも長年協力してきた。その数は、03〜2010年までで延べ800人以上。治安上の理由からイラク国内ではなく、ヨルダン、エジプト、シリアなどの第三国や日本を舞台に、水資源管理分野を中心とした研修を実施してきた。そうした地道な取り組みを行ってきた結果、

石油に次ぐ産業の再興を

イラクは、国内総生産(GDP)の8割を石油産業が占める。とはいえ、国として一つの産業に依存するのはリスクが大きいことから、イラク政府は2010年に発表した「イラク国家開発計画」で農業振興を掲げている。JICAは円借款を通じ、灌漑排水ポンプなどの機材を供与。さらに、日本の円借款を受け78年に操業を開始した南部バスラにある「コール・アルズベール肥料工場」の改修を再度円借款で支援し、農業生産性の向上を目指していく計画だ。

水管理」などに参加したイラク農業省・水資源省・計画開発省の担当職員たちは、農業が盛んな中央部カルバラ県の灌漑整備計画の策定に取り組んだ。「イラクにとってフロントティア・プロジェクトだ」と彼らは言ってくれました。強い意志と技術を持った人材へと成長してくれた証しだと思えます」とこの研修を担当したJICAヨルダン事務所長の西田有一さんは話す。そして現在、イラクは独自に首相府に「農業イニシアチブ」という機関を設置し、他の5県でも灌漑設備計画を策定するためのプロジェクトを実施している。

月からは、2つの技術協力プロジェクトが北部のクルド自治区で始動している。一つが「食糧自給のための小麦生産性改善プロジェクト」。クルド自治区はイラク国内でも降雨量が多いが、それ故に雨水に依存した「天水農業」が一般的で、生産量は天候などに左右されがちだ。そこでプロジェクトでは、天水農業であっても一定の収量が見込め、かつ耐乾性や耐病性を持った小麦の品種の選抜を支援。農業試験場で複数の品種を栽培し、この土地に適した品種の適正な栽培方法を地元の農業普及員に伝えていくほか、水資源の有効な利用にも取り組む計画だ。クルド自治政府・農業水資源省のマクスードさんは、「まずはクルド自治区での自給を達成し、いつか国外にも輸出できるようにになりたい」と意欲を見せる。

大限生かし、より効率的な支援を行っていきたい」とJICA農村開発部の井口邦洋さんは話す。そしてもう一つの技術協力プロジェクトが「クルド地域園芸技術改善・普及プロジェクト」。トルコやシリアなどからの輸入品と比較すると品質が劣る国産のトマトなどの野菜と、リンゴやブドウなどの果樹の栽培技術を改善することが目的だ。



園芸作物の試験場で栽培されるブドウ。この試験場のほかに農家の圃場でも園芸作物の試験栽培を行い、適性な栽培技術や品種を試していく



収穫後の小麦畑。プロジェクトでは、この試験場で品種の選定などを行っていく

農業の再興へ 第一歩を踏み出す

肥沃な土壌 農業に適した国

黄金色に輝く小麦畑、ヤシの木が整然と並ぶナツメヤシ畑、青々とした野菜や果物が実る菜園。イラクという土地、石油を真っ先に思い浮かべるかもしれないが、そのイメージとは違うこんな風景がこの国には広がる。イラクは、知る人ぞ知る農業国。石油に次ぐ産業であり、労働人口の20%以上が農業に従事している。かつてメソポタミア文明が開いたチグリス・ユーフラテス川流域の肥沃な土壌の恵みを受け、古来、農業が営まれてきただけに、

かつては周辺国に輸出するほどの農業国であったイラク。だが、度重なる戦争や経済制裁などにより、農業は衰退し、食料自給率も低下した。「石油産業への過度な依存を避けたい」。こうしたイラクの思いも受け、農業の再興を目指したJICAの支援が本格的に動き出した。



灌漑施設から農地まで水を効率的に送る方法を学ぶため、日本人専門家らとヨルダンのレモン栽培農場を視察するイラク人研修員

